



議会だより

12月定例会号

令和2年1月31日発行

No.149

# こうみ



12月議会 ー第4回定例会ー

こんなことが決まりました

議案質疑・委員会からの要望

臨時議会

一般質問

高校生議会・表彰・編集後記

2

4

5

6

12

令和2年小海町消防団出初式（初放水）

きかせて みんなの夢

みなさんの未来に寄り添うまちに



# こんなことが決まりました

## 令和元年度一般会計で台風19号による 災害復旧工事を追加補正

### 令和元年度一般会計補正予算（第5号）

全員賛成で可決

6億611万円を追加補正 総額47億8,075万円

#### 【歳入の主なもの】

●地方交付税	4,038万円
●災害復旧国庫負担金	1億7,200万円
●災害復旧費県補助金	3億3,030万円
●災害対復旧事業債	8,800万円

#### 【歳出の主なもの】

●生活応援事業（灯油券）	450万円
●幼児教育保育無償化に伴うシステム改修	251万円
●台風19号災害見舞金	183万円
●JA予冷库補助金	1,970万円
●公共土木施設災害復旧費	2億1,800万円
●農林施設災害復旧費	3億8,935万円



幼児教育保育無償化で10月1日より3歳以上児の保育料が無料になりました

### 令和元年度 特別会計補正予算

全員賛成で可決

国民健康保険事業特別会計	320万円追加補正	総額 5億8,961万円
介護保険事業特別会計	201万円追加補正	総額 6億9,717万円
後期高齢者医療特別会計	258万円追加補正	総額 7,627万円
水道事業会計	129万円減額補正	総額 8,890万円

令和元年小海町議会第4回定例会が12月4日から18日まで15日間の会期で開催されました。人事案1件、条例改正案等8件、補正予算案5件、陳情1件、事件議決1件の合計16件で審議が行われ、陳情1件を除き、すべての案件が可決・同意されました。一般質問は、6名の議員により行われ、町の考えをただしました。

# 12月議会 第4回定例会で

## 人事案

小海町農業委員会の委員の任命同意について

令和2年2月1日から3年間が任期の農業委員14名の任命の同意がされました。  
全員賛成で同意

## 条例改正等

南佐久環境衛生組合格約の変更

令和2年4月から南佐久環境衛生組合の公共下水道事業に地方公営企業法の財務規定を適用するための規約の一部を変更するものです。  
全員賛成で可決

議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

12月の期末手当を0・05月分引き上げるとともに令和2年4月以降の期末手当について6月期、12月期の支給率を均等にします。  
全員賛成で可決

特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

監査委員の報酬を他の行政委員に合わせたものです。農業委員については人

農地プランに係る活動に予算の範囲内で委員報酬に上乘せして支給することを可能とするものです。  
全員賛成で可決

特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例

12月の期末手当を0・05月分引き上げるとともに令和2年4月以降の期末手当について6月期、12月期の支給率を均等にします。  
全員賛成で可決

一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告に伴い12月期の勤勉手当を0・05月分引き上げるとともに住居手当の支給対象となる家賃額の下限を引き上げ、手当の上限を引き上げるものです。また、初任給及び若年層の俸給月額を平均0・1%引き上げるものです。  
全員賛成で可決

特別職の職員で常勤の者等の旅費に関する条例の一部を改正する条例

宿泊料の県外分を2,000円増額し、14,000円とするものです。  
全員賛成で可決

職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例

宿泊料の県外分を2,000円増額し、14,000円とするものです。  
全員賛成で可決

小海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

課税額の定義について財政責任主体が都道府県にあることを明確にするものです。  
全員賛成で可決

## 事件議決

小海町第6次長期振興計画について

令和2年度から施行される第6次小海町長期振興計画前期5ヶ年計画を策定しました。  
全員賛成で可決

## 陳情

最低制限価格の設定に関する陳情書

一般社団法人

長野県建築士事務所協会

会長

小河 節郎

佐久支部長

山口 正久

継続審査となりました。





# 議案質疑

令和元年度一般会計補正予算(第5号)関係

**Q** 憩うまちこiumみ拠点施設管理負担金とは？

**A** 憩うまちこiumみ拠点施設を松原湖漁業組合が一部使うのでその負担金です。

**Q** 憩うまちこiumみ拠点施設の進捗状況は？

**A** 設計が仕上がり、指名競争入札で入札すべく業者に見積をお願いしているところです。外構工事は湖水に氷が張らないとできないので、合併浄化槽の方から進めて参ります。

**Q** 大畑町営住宅解体工事のアスベストはどこから出たのか？

**A** 屋根材と屋根の瓦、軒天に貼ってあるものにアスベストが含まれておりました。

**Q** 大畑町営住宅跡地整備の多額の減額は何か？

**A** 下水の配管と道路の舗装は現状のものを使う為、減額となりました。

**Q** プレミアム商品券の売れ行きは、いつまで販売するのか？

**A** 11月末で33%です。3月まで販売しております。

**Q** 災害復旧費、起債が8,800万円追加になっているがその財源は？

**A** 公共土木施設災害については充当率100%で交付税算入率は95%、農林施設災害については充当率が90%で交付税算入率は95%です。一般単独については充当率が65%で交付税算入率は財政力指数により47.5%〜85.5%までで財政力指数が低いほど交付税算入率は高くなります。

**Q** 楽集館の加工施設設置の事業の中止について？

**A** 白紙に戻して案を練り直し見直すことにしました。今後、障害福祉計画を策定し、再度、場所や内容等を精査していきます。

令和元年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)関係

**Q** 保険者努力支援制度とは？

**A** 収納率の向上、データヘルスの計画の作成状況、地域包括ケア推進の取り組み状況等、多岐にわたる項目で点数化され、交付されるものです。

各常任委員会からの要望

総務産業常任委員会からの要望

●議会提出される資料について図面等を使用する場合には具体的に見やすく分かりやすい資料提出により進められたい。  
○町長 鋭意努力しご要望に沿えるようにしたいと思います。

民生文教常任委員会からの要望

●町の障害者福祉計画策定に関し、障害者福祉施設の建設にあたっては、近隣町村と連携をとって、施設整備について協力を得た上で進められたい。

○町長 障害者福祉施設の建設に際しては、近隣町村のニーズや意向を十分に把握し連携をとった上で障害者の皆さんのサービス向上等に繋がる整備計画を進めて参ります。

予算決算常任委員会からの要望

●事業実施にあたっては、予算説明通りに実行し、万が一大きな変更が生じた場合及び生じる場合には、事務処理規則に則り、事業の適正な書類整備を行い、速やかに直近の議会にて説明をするよう要望する。

# 臨時会

令和元年第5回臨時会 10月25日開催

## 補正予算

### ◆一般会計補正予算（第4号）

1億8,131万円を追加補正  
 総額 41億7,463万円  
 台風19号関連の費用8,923万円、農業費で産地パワーアップ事業・予冷施設建設の農協への補助金 9,899万円が主なものです。

賛成多数で可決

## 陳情

### ●真空予冷装置・製氷機施設の建設に関わる補助金の交付に関する陳情書

陳情者  
 J A長野八ヶ岳代表理事組合長 由井 和行  
 J A長野八ヶ岳小海支所支所長 新津 正幸  
 全員賛成で採択

## 議員発議

◆公立・公的病院の再編統合の議論が必要とする厚生労働省の公表に対し、長野県南佐久郡小海町にある長野県厚生連佐久総合病院小海分院の存続を求める意見書

全員賛成で可決し関係機関に意見書を提出しました。

## 第5回臨時会で審議された議案（賛成多数）

（○は賛成 ×は反対）

(議員氏名)	古谷 恒晴	渡辺 均	井出 幸実	井上 一郎	小池 捨吉	有坂 辰六	篠原 伸男	篠原 義從	的埜美香子	井出 薫	新津 孝徳	鷹野 弥洲年
(議案名等)												
一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	議長職

### ○町長

ご要望のとおり、各事業において大きな変更が生じた場合や生じる見込みのある場合は直近の議会において説明させていただきます。

### ○町長

公共施設の建設及び改修においてはトイレの※ジェンダーフリー化を研究されたい。また憩うまちこうみ事業で改修中の拠点施設に更衣室の設置を検討されたい。

この件については、今後先進地の事例等を研究し、世間の流れに沿った取り組みを検討致します。更衣室の設置につきましては、この施設を使う方は松原湖周辺の宿を利用される方を想定しておりますので、着替えについては宿で行うようにしたいと考えております。

※ジェンダーフリーとは従来の固定的な性別による役割分担にとらわれず、男女が平等に、自らの能力を生かして自由に行動・生活できること。

### ○町長

●台風19号における災害復旧において、復旧箇所の調査漏れがないよう精査し、きめ細やかな支援をお願いしたい。

災害復旧につきましては被災された皆さんの立場になり、出来る限りきめ細かい支援をして参ります。



# 問 広報問題等、町長の責任は

答 町長 町の最高機関である議会でおわびを入れた



井出 薫議員

何が問題と

認識しているか

**問** 広報160号（公民館報512号）の「町の財政状況について」を6月17日、予算・決算常任委員会で私から問題提起させていただいた。  
議会全員協議会などで、どう対応すべきかと9月議会まで議論してきた。新聞報道も2回され、最終日に町長から「今定例議会で不手際や間違い及び不適切な事項がいくつか指摘されました」と述べ、この問題に触れているが、何が問題と認識しているか。

**町長** 問題は、「誤った記載の内容がありました」と最初に書いたことが1番の原因だと思っております。

**問** 議会から

1、理事者側と議員個人の見解の相違について広報で反論すべきではない  
2、費用を請求すべきでない  
3、公文書の取り扱いを含めて行政事務を慎重にと申し入れがあり、「冷静さを欠き、軽率な行動」と言われているが。

**町長**

「間違っていたと、誤

った記載の内容があった」と載せてしまったということですね。

請求書 Ⅱ 公金

**問** 印刷費は、渡辺議員に払ってもらおう、個人負担としてつくり、町民の皆さんに情報発信をした。なんで請求を取り消したのか。

**町長** 広報は個人負担にすべきではないという判断もあり、議員さんも受取を拒否した。そこで終わりにした経過がございます。

**問** 請求書をつくれればもう公金じゃないのですか。町民のお金ですよ。それを反省したからやめる、握りつぶして、はい終わりでは無責任ではないか。

**町長** 無責任にしているつもりはございません。町の最高機関である議会でおわびを入れたということです。

2回もの新聞報道

**井出議員** 町長、副町長、総務課長で相談し、間違っていないのに間違いと書き、請求書まで出したのに今はない、控えも？

それを町長は謝罪だけで終わらせたいと、他の職員への影響は計り知れません。

議事録

開催年月日: □本年 □10年 □3年  
 開催時間: □12時 □  
 出席者: □町長 □副町長 □議員  
 □会計管理者 □総務課長 □教育長 □市長 □市長  
 □市長  
 欠席者: 氏名  
 下記について  
 あり  
 ない  
 その他

議事録作成者: 小海町議会事務局  
 議事録作成日: 年 月 日

問 仕事／休暇

ワーケーションで小海に活気を!!

答 町長 貴重な意見であり、後々役立てていきたい



篠原 伸男議員

**問** 平成28年度から始めた「憩うまちこうみ形成事業」は30年度までに二千六百万円が投じられた。先進地信濃町では28年度千六百人が利用し、経済効果は七千七百万円、セラピスト一人60万円の報酬を得ている。小海町の現状は。

**総務課長** 現在、地域おこし協力隊を募集しており、その任期三年を終えたら一人立ちさせていきたいです。

**問** 今年も一千万円投じるが、以前質問した時、新たな組織

**総務課長** 協定企業は5社です。来町者210名、経済効果550万円、セラピスト報酬は55万円、これを12人で分配しています。

既存・遊休施設の活用による町づくり

**問** 憩うまちこうみ形成事業はセラピスト等人材の確保が難しい。この7月「ワーケーション自治体協議会」が全国

レベルで設立され、長野県下

は佐久市、軽井沢町・立科町・信濃町等21自治体が参画しましたが、新たな町づくりの為に検討の価値があると思うが、町長のお考えを。

**町長** すばらしい事業であり、後々に役立てていきたい。

**問** ワーケーションはワーク

仕事とバケーション休暇が融合した造語です。この事業はテレワーク等仕事をする施設と泊まる施設が必要です。小海町には松原湖周辺の旅館・リエックスホテル・駅上のコワーキングスペース・アルルの空きスペース・旧松原保育所・開発公社別荘等があり、大変整備しやすいです。立科町は金融機関の建物を再活用してふるさと交流館を作り他地域の企業と業務委託し、データ入力やウェブページの更新をするテレワークセンターを配置し、子育て中の母親35人が月給5〜6万円を確保できる職場を作り出しています。ワーケーションは長野県が力を入れてい事業でもあり、

新しい町づくりになると思います。

**篠原議員** 平成29年度小海町職員希望降任制度実施要綱が作られ、今まで3人が健康を理由に降格を希望されています。健康経営に役立つ憩うまちこうみ形成事業を展開している現在、職員の健康を切望致します。



憩うまちこうみ体験ツアー「ヨガ」



# 問 土木農林関係職員が不足しているのでは

答 町長 役場全体を通じて、足りないという実感



的埜 美香子 議員

**問** 台風19号被害の復旧の目途はどの程度立ちそうか。

**産業建設課長** 公共土木災害は査定、入札、2月上旬頃に発注します。生活に密着している箇所から早期復旧に取り組んでいきたい。農地災害も同じ流れで来年の耕作に間に合うように工事着手をしています。林道災害も同様、有害鳥獣駆除や松茸山の入山など頻繁に使用される林道を優先的に復旧して参ります。

**町民課長** 被災家は床上浸水の家屋（4軒）は半壊とし

て信州被災者生活再建支援制度の適用、片付け、災害ごみ撤去、消毒、汲み取り援助、生活必需品の支援などを町で行い、順次復旧の目途が立っています。

**問** 林道災害で国の査定から外れた部分については。

**産業建設課長** 国で査定を受ける分2か所、それ以外14か所は町単独で予算を確保した中で順次下から上へと進めて参ります。

**問** 農地の泥出しで、重機を

使えない農家への支援は。

**産業建設課長** 申し出頂ければ町で撤去します。

**問** 11月の区長等による検証会での意見は。

**町民課長** 「日頃から町民に水害のリスクを知っていたら、水害から身を守る為の知識、心構えを周知していただきたい。」「避難所は川西だけでなく、川東にも設置を。」「情報共有、伝達は防災無線以外のHPなどでも分かる仕組みも必要ではないか。」「などの意見を頂きました。検討を重ねて参ります。」

**問** もう少し具体的なシミュレーションを地域ごとで行う必要があるのではないか。

**町民課長** 昨年からの取り組んでいる地区ごとの防災マップ作成を今後、町民の皆さんと懇談会を重ね、細かい防災の計画を地区ごとに精査して進めていく予定です。

**問** 土木、農林関係の職員が不足している。今後、土木や建築の技師の資格を持った職員が必要ではないか。

**町長** 産業建設課の職員に相応な長時間残業等々全力で当たってもらい、何とか頑張り抜いた。役場全体を通じて、職員はちよつと足りないという実感はしております。



台風19号対策による避難所の様子（総合センター）



# 問 住民の安心・安全な町として大丈夫か

答 町長 何事にも最善の努力は惜しまない



小池 捨吉 議員

**問** 台風19号では小海町では東側地区及び千曲川で大きな被害をもたらしました。その中で事前情報収集が不十分ではなかったかと思われま。近隣町村、国交省、電力会社、JR等と協定し情報収集は出来ないか。

**町民課長** 国との連絡共有のJアラート等で情報をいただいています。近隣町村との連絡共有については実情として難しいと考えます。

**町長** 電力会社、JRに情報があると言うことであれば手

前どもも一考の余地はありません。今回の台風19号の教訓として職員、消防団員が川へ行かなくも把握できる事は大変良い話だと思えます。

**問** 我が町としても最も危険と思われる箇所（千曲川・相木川）に監視カメラを設置してはと考えますが町としての考えは。

**町民課長** 現状は町の職員、消防団員が暗中堤防や、橋脚等を確認しており、大変危険なので検討したいと思えます。



小海小学校裏を流れる相木川



周辺整備が望まれるレストハウスふるさと

**問** 前回、一般質問で要望しました小学生が主体で通る小海トンネルに強固なガードレール設置について調査、検討結果は。

**産業建設課長** 小海トンネルは歩車道ブロックと転落防止柵が設置されており、安全対策はできていると言うことで現在の所では考えていません。

**問** 西の玄関口、「レストハウスふるさと」の敷地内に自然エネルギーを併用した展望台の設置について、前回の質問時検討したいとの事だったが検討結果は？

**町長** 展望台については進めていきたいが自然エネルギー併用については、出来るかどうか検討し、提案を承ります。

# 問 無料の宿泊体験施設は民業圧迫ではないか

答 町長 自らの努力で経済を上げていくのが生業である



渡辺 均議員

問 親沢の空家整備の目的は何か

総務課長 宿泊体験、環境体験施設として活用します。就農希望者には農林係が対応する。民業とはバッティングしません。

問 憩うまち事業でやっている企業が地元で泊まる経済効果があるのではないか

町長 地元宿泊業者が移住体験の客を望むことはございません。

総務課長 地元業者には影響しません。

問 施設整備は、活用の方策を詰めるのが先で、手順前後ではないか。

総務課長 説明は当初予算説明時にしています。

問 長期振興計画などの事業計画は、5〜10年先の町の姿がイメージできるように、町民に分かりやすく表現してほしい。

町長 貴重な意見として承ります。

ます。

問 貴重な意見と言うのであれば、責任をもって取り入れて頂きたい。次に、駅前商店街の活性化は、地域主導で、内発力を導く形でできないか、小海診療所では、駅舎の使い方について、目論見があると言っている。これが内発力とどうものですか。憩うまち事業では、外部の企業の支援で進めるようだが、企業が撤収すると事業の推進力が失われる、事業は外部の力に頼らないで、内発力を活かして立ち上げて頂きたい。また人材育成は、事業計画づくりを通じてノウハウを学び、自ら予算を取ってくるように育てたらどうか

町長 職員は今、うんと努力しています。

問 憩うまち事業では、各課で該当する事業成果を描く。包括支援では、予防ケアを全町民が受ける、教育委員会では、電子黒板用の教材に地域の学習教本を作成する、各課

で一課題くらい実行する、そういう計画を長振レポートにして欲しい。

町長 既に職員の下からの積み上げでやっています。

問 積み上げているなら、議会的な確かな答弁ができるはず。できない場合は、今の答弁は甘いと言われても仕方ないのではないか

町長 専門的なことは職員の方がよく分かっています。



親沢に整備中の移住体験施設



# 問 国をあげてCO<sub>2</sub>削減を考える令和に

答 町長 我々が積極的に自然環境を整えてゆく

## 一般質問



新津 孝徳議員

10月の台風19号を顧みて町を初め近隣市町村から長野市に至るまで大変広範囲に渡り莫大な被害をもたらしました。全国的に見ても最大級であり、国家、国民において大変な損失であります。五十年百年に一度の被害と言われていますが、一生涯の思いで建てた住宅は流され、先祖代々受け継いできた農地は荒れ放題、途方に暮れている方々の思いは想像を絶するところだと思えます。近年の気候変動から見ると、毎年、日本のどこかで豪雨や台風の被害が起きており、予測がつきません。

普段から備えておかないと間に合いません。

問 大災害の台風を体験して町長の感想は。

町長 町長としての責任の重さを感じました。判断を間違えないこと、消防団、消防署、警察等大きな組織との連携がとれ、また区長さんを始め、色々な役員の皆様の力を借り、人的被害なく済ませることができた。今後も常に自分の判断を研ぎ澄ませていかなければならないことを痛感しました。

問 災害を担当した課長にもお願いします。

産業建設課長 台風は大変怖いものだと思った。職員と査定の準備を進めている。査定後速やかに皆さんの農業、林業等が来年度スタートできる形をとっていきたい。

問 今回の台風は避難勧告や避難誘導があったというところで、備蓄品はどうであったのか。

町民課長 備蓄品は災害時に備えて各種備蓄しています。保存食、毛布、簡易トイレ、トイレット、ペーパー、安眠セット、救急セット等。今後適切な更新、保管等を計画的に実施し、何が必要か充実を図っていきます。

問 今回のような大災害が想定される時、避難所が遠すぎる気がしたが。

町民課長 今回は総合セ

ンター、役場、やすらぎ園、中村公民館へ計九十九世帯百八十四名が避難しました。今後はきめ細やかな地区ごとの避難場所をマニュアル作りの中で示して参ります。

新津議員 最後にCO<sub>2</sub>削減を考える令和時代にしてゆかねばと強く感じた。



町道市の沢親沢線 親沢上崩落現場



## 高校生模擬議会開催

昨年度の小学生による子ども議会に引き続き、今年度は小海高校1年生14名による高校生模擬議会が10月31日に役場議場において開催されました。高校生が日頃抱えている町政に対する意見や要望を質問しました。



去る10月23日に開催されました長野県町村議長会定期総会において鷹野弥洲年議長、新津孝徳議員、的埜美香子議員の3名が在職10年以上の表彰を受けました。



## 編集後記

新年、明けましておめでとうございませう。昨年、台風19号が県内外に大きな被害をもたらし、我が小海町でも、200名弱の皆さんが不安な一夜を避難所で過ごされる事態が生じました。家屋の浸水や田畑の被害に終わった皆様、そして不安な一夜を過ごされた皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

12月議会では、一刻も早い復旧・復興を図ることを念頭に、国や県への災害査定を迅速に行い、予算確保に向けた審議を行いました。一般質問でも、防災対策の重要性が改めて問いただされました。

会期中、行政施策の進め方について、一部の事業で、当初予算時に説明した内容とは異なった取り組みが報告されました。基本は議会に説明したことを履行することで、変更の必要性があるときは、事前に速やかに議会に説明するような行政側に要望しました。

これらを含めて、議会と行政は、町民と共に、ラグビー日本チームのように、ワンチーム、一丸となって取り組むことが確認されたと思っております。



(編集委員)

編集責任者	鷹野弥洲年
編集委員長	井出 薫
編集委員	有坂 辰六
編集委員	井上 一郎
編集委員	渡辺 均